



わかたけ



第3号 2007. 6. 29
高知県公立学校事務研究会

HPアドレス : <http://www.kochinet.ed.jp/kgjimuken/>
メールアドレス : kgjimuken@kochinet.ed.jp

ご意見・ご感想はこちらまで。

季節の変わり目です。体調管理に気をつけて、この夏を乗り切りましょう！

★ 高知県公立小中養護学校事務研修会報告 ★

平成19年5月22日(火) 於：高知会館(白鳳の間)

◆参加者数◆	(計172名)			
安芸支部：6名	香長支部：30名	高知支部：38名		
高吾支部：58名	幡多支部：19名	臨時的任用職員：18名	県教委他：3名	

○ 会長あいさつ

昨年度、学校事務のあり方について今後の方向性を取りまとめた報告書が出され、その後、県教委より「公立小中学校事務職員の標準的職務について」の通知が出されました。その文書のはじめには、「地方分権が一層進展する中で、学校が自主性・自律性を確立し、特色ある学校づくりをすすめるためには、学校の校務分掌や組織運営を見直すとともに、責任の明確化を図ることが求められています。このような時代の要請に学校運営の基盤である学校事務が対応するためには、小中学校の事務職員の専門能力の一層の活用を図ることが必要であり、そのためには、事務職員の職務内容を整理し、明確にする必要があると考えます。」と書かれていました。すごく意味のあることで、私たちは期待されていると思います。

そのような中、平成20年度には通勤手当、住居手当の認定が学校長におろされます。今まで以上に記入間違いや記入抜かりがないか、責任をもって確認するのは私たちの仕事です。また、私たちには単なる事務処理ではなく、企画、提案したり、判断や調整する仕事を増やしていくことがこれからは求められてくることになるのではないのでしょうか。そのときに困らないように、実践を積み、校内や地域でこれからの学校事務を推進していくために、一人ひとりが力をつけていきましょう。そしてその力をチームで発揮し、高知県の学校事務の課題を解決していきましょう。事務職員だけで何とかしたいと思っても、何も変わりません。地教委、学校、事務職員、それぞれが役割を果たして、その地域にあったやり方を考え、できることから実践に移していきましょう。

○ 祝辞 県教委教育政策課

土佐の教育改革が始まって10年。学校が組織として活用する鍵を学校事務職員は持っている。教職員の資質向上、職業能力の育成がいわれるなか、各校単数配置の学校事務職員は、専門性の向上がはかりにくいのではないかとということで、学校事務の在り方検討委員会がたちあがった。質の高い安定的な学校事務をおこなうための執行体制を、各市町村で確立し、積極的に取り組みたい。

○ 「教職員定数について」(県教委小中学校課)

高知県の子ども数は年々減少している。高知県の学校へ子どもに来てもらうためには質の高い教育を提供することが大切である。教員数は児童生徒数に関係しており、学校事務職員数は学校数と直結している。学校が統廃合されると学校事務職員数も減ってくる。そんなとき、効率化・集合化のための加配は、可能性のある配置の方法だと思う。

高知県は全国一、教員一人当たりの児童生徒数が少ない県であるので、教育効果は上がるはずと言われた。三位一体改革議論が白熱していたころ、受益者負担ということがよく言われた。今は小康状態だが、再燃する可能性はあり、そうなったら高知県はどうなるだろうか。

高知県の歳入の67.2%を国に依存している。地方交付税が減少し、高知県の産業も危機に瀕

している。教育だけがこのままでいられるはずはない。歳出はその地方にあった財政規模にすることが必要である。国の顔色をみるか、高知県独自でやっていくか、どちらかしかなく、高知県は独自でたっていく道を選んだ。学校も体質改善をしないといけない。減る予算の中で生きていくだけではいけない。配分されたお金を適正に執行するだけではいけない。考えていけないといけない。どの人を動かし、どこに予算を使い、どのように教育効果を上げるのか設計図をみなさんが描かなければならない。それに基づいて管理職に提案し、予算要求をしていく力が必要である。そのために何をしなければならないか。専門性をもつ、プロの学校事務職員になること。みんなのアイデンティティを高め、組織化されなければならない。その動きの中で集合化というのはおもしろい。現状のままではつぶれてしまう。情熱と知恵を持って、高知県の子どものために、こういうことが必要だと提案してきて欲しい。応援します。

○ 研修報告「各地域の中核となる事務職員の育成を目的とした研修」

(横川総括主任 ・ 藤崎主幹)

① 実践事例発表より

1月29日から2月2日の5日間でおこなわれた研修には、一つに講義・演習のもの、二つ目に事前に課題として提出していたレポートを元にグループで協議・検討するもの、三つ目に教育現場からの実践発表を聴くという形態でおこなわれました。全国各地から178名の参加者でした。受講を受ける前に事前レポートとして、「今日の教育改革に対する自校の取組を支える学校事務職員の役割」「特別支援教育に係る学校の課題」「学校安全管理に関して何を担当しているか」などのテーマがだされました。5日間の研修を通して、大きなテーマは、教育改革の流れの中で、今、学校事務職員として、何ができるのか？何をしなければならないのか？ということと感じました。

② 講義・演習より

危機を防止する、職場における「10の行動指針」

- ①「ちょっと変だな！」「大丈夫かな？」という意識を持ち仕事をしているか
- ②コンプライアンスをはみ出した行為をしていないか
- ③社会的責任または道義的責任から見て、問題はないか
- ④児童・生徒の立場と目線。市民の顔を思い浮かべて行動しているか
- ⑤職場の“疑似事項”を「三猿主義」でウヤムヤにしていないか
- ⑥一つのクレームにも、迅速・的確に誠意を持って対応しているか
- ⑦そのことを誰に対しても堂々と説明できるか
- ⑧“敏腕な社会部記者”が知っても問題とならないかを考えよう
- ⑨「学校の常識」ではなく、「社会の常識」で判断しているか
- ⑩「リスク記事」を教訓としよう（報道記事は「危機管理の失敗例」の生きた宝庫だ）

危機管理は誰のために、何のために必要か？

誰のためでもない！「自分と自分の家族の生活を守るため」にある！

○ 支部研究報告

短い時間ではありましたが、本年度も各支部代表の方より昨年度の研究報告をしていただきました。報告者の皆さん、各支部の役員さん、どうもありがとうございました。

○ 第43回定期総会（出席者148名、委任状43名）

高知県公立学校事務研究会会則第7条2項により総会は成立し、第1号議案と第2号議案ともに賛成多数で可決されました。

○ 講演「学校事務の方向性」 檜山氏

現状の教員は、複雑化、拡大化されている業務に追われ、教材研究や子どもとふれあう時間が不足していると言われている。そんな中、教員の担っている学校事務を事務職員へ移行し、教員のあるべき姿へ向け、取り組みをしている。そこで学校事務の課題となるのが、学校運営組織の再編、

事務処理体制の整備、事務の効率化、事務職員の活用である。今、求められる学校の組織体制として、地域や保護者や外部機関との連携を円滑に行う体制、校長のリーダーシップが最大限に発揮できる体制、教員が教育に専念できる体制である。学校事務の効率化としては、「プライオリティ（優先順位）何が一番必要か、何からできるのか」と「スクラップ&ビルド（取捨選択）何かを始めるとき大事なものは残しておいて始める」をもちいて学校業務・事務の見直しをおこなう必要がある。今、事務職員に求められているものは何か。自ら考えること、意見・提案をすること、理解してもらえるように話すこと、誰かがしてくれる仕事はほとんどない。私たちは、プロとして仕事をしている以上責任をもって仕事をしたい。自分の机の上の整理だけでなく、学校全体を見渡さなければならない。学校がある限り学校事務はある。その中で職員の一員として、また専門家として、事務職員ならではの提言をしていこう。

会費の集金について（お礼とお願い）

5月22日の研修会では、総会前でしたが朝の受付時間より、たくさんの方から会費を集金させていただくことができました。ご協力ありがとうございました。

8月7日、8日の県大会でも、朝の受付時と午後の開始前から集金させていただきますので、会費の納入がまだの方は、是非お願いいたします。

なお、都合で欠席される方は、どなたか頼める方に会費を預けていただけるとありがたいです。皆様のご協力をよろしくお願いします。

各支部PR

香長支部

今年度、旧香美支部と旧土長支部が合併してスタートを切った香長支部は、香美市、香南市、大豊町、本山町、土佐町、大川村、南国市の事務職員で構成され、全体で50名程度の支部となりました。

合併にあたっては、旧2支部から新役員を選出して、昨年度から話し合いを重ねてきました。研究面でテーマや内容をどうするか、研修会をどう持つか……。運営面で役員の業務をどう振り分けるか、会費はどれくらい集める必要があるか……。ひとつひとつ擦り合わせ、形にしていきました。

今年度は、研究テーマを『地域の学校事務の組織力と質の向上をめざす』とし、春夏冬と年3回の研修会を予定しています。支部の研修会の内容や予定、運営に関する規程等につきましては、順次、県事務研ホームページにアップしていく予定ですので、ご覧になってください。

また、香長支部は夏の県大会で分科会を受け持っています。合併の準備と並行して研究を進めてきました。分科会テーマを『学校事務を取り巻く状況の変化に対応するために、わたしたちでできること』とし、香長支部の状況や取り組み、成果と課題、今後の展望などを報告します。学校事務職員として、わたしたちにどんなことができるのか、いま何をすべきなのか。ぜひ、ご参加いただき、各学校の、各市町村の、そして高知県の学校事務の現在と未来を、一緒に考え、語り合いませんか。たくさんの方の参加をお待ちしています。

高知支部です



高知市の事務職員は総勢91名（内臨時職員30名）！！

めざす事務職員象を掲げ、研究テーマ「ともに進める学校事務」のもと活動しています。昨年度からは、従来の各区（東西南北）に分かれての活動とともに、6つの研修グループ（自分がとりくみたいテーマのグループに参加）での研究・研修がはじまり、研究部・研修部・コンピュータ研究部とともにスキルアップを図っています。また、他職を交えての研修をおこなうなど関係機関とも連携をとりながら、まさに今、学校事務をともに進めています。

今年の夏の研修予定は・・・

- 8月2日 市教研学校事務部会（県大会に向けて）
- 8月21, 22日 夏季教職員研修会（情報・文書について）
- 8月28日 市教研教科外部会（これからの学校事務・給与について）



昨年度の詳しい活動は、研究集録「わか竹」に載っていますので見てみてくださいネ！

また、県大会にむけても、運営ブロックとして取り組んでいます。今年の夏も、熱い夏になりそうです。

高吾支部

今年度から吾川と高岡が一緒になり、13地教委、113校106名の事務職員となりました。基本的に高岡支部の体制を引継ぎ、年間3回の全体の会と夏休み中の基本実務研修（2日）を計画しています。

毎回タイムリーな内容の研修を研究部が中心となって実施しています。また、年に一度は外部から講師をお招きして講話をいただいています。学校には直接関係はないけれど仕事に刺激をいただける方をお呼びし好評です。

そのほか、総括主任さんのコーナーや、市町村別の情報交換の時間を設ける予定です。

基本実務研修

平成19年8月23日（木）～24日（金） 中土佐町民交流会館

内容 ◆ブロックによる実務研修 ◆総括主任のコーナー など

詳しい内容はまだ決定しておりませんが、興味のある方、お時間の許す方はどうぞご参加下さい。島津までご連絡いただければ、要項をお返しします！

HP更新について

今年度は、県事研調査研究部がHP更新を担当しています。6月に原稿を締め切った分については、6月末に更新しますので、ぜひご覧ください。

次回の更新は、原稿締切が7月20日となっていますので、各支部の担当者の方はよろしく願いします。

県大会申し込み人数

- ◆申し込み人数◆（計223名 6月27日現在）
- | | | | | | |
|------|-----|------|-----|----------|-----|
| 安芸支部 | 33名 | 香長支部 | 41名 | 高知支部 | 62名 |
| 高吾支部 | 60名 | 幡多支部 | 27名 | （臨時職員含む） | |

**** 今回の担当は 森澤 ・ 小林 でした ****